A. 高校普通科の教育課程改革の問題

—後期中等教育改革の動向と附属教育の対応—

都築　亨　　中尾正三　　高森　充　　持田都也　　富田　昇
加藤十八　　三橋一夫　　戸苅　進　　佐伯正一　　滝藤満義

＜ま　え　が　き＞

我々は昨年度次のような動機と目的とから(1)〜(3)の研究をすすめ，その第一年度報告を本校紀要第11集に発表した。

「（動機）

我々は現在の教育にゆきづまりや不満を感じていた。あるものは方法に，あるものは教育自体に，また附属というもののあり方にも——。

何らかの打開を求めて集まり，話し合っている中に次のような目的と方法を一応仮説としてみた。数年間の継続研究で，研究をすすめる過程で検討され，修正されるかも知れないが，今年度の研究結果を報告し，批判を仰ぎたい。

（目的）

世界各国において教育改革が切実な問題となりつつある現在であるが，特に後期中等教育の内容が改革の対象となっている。

日本でも中教審あたりで問題とされ，産業界からはその立場での改革への期待がよせられ，自然科学の立場での専門学者のカリキュラム面における発言・研究がなされつつある。

これに対して学校教育の現実の対応の仕方ははるかに立ちおくれているとはいえないだろうか。私達は世界の，そして今迄の日本の教育の動向からみて，今後の後期中等教育（特に高校普通科）の在り方をさぐり，各教科を中心として実験的な試みを重ね，ひいては今後予定される教育課程の改訂に何らかの発言をしたいと考える。

（1）　世界各国の後期中等教育の動向からみて，各教科課程をとり上げその問題点を考察する。

（2）　戦後の日本の教育の流れを反省し，そこから教育課程改善の方向をさぐる。

（3）　実験的検討及教育課程改訂への発言。

第一年度の計画

①　各科の教科内容の近代化現代化の検討

②　教育改革について各方面の意見をきく
　　産業界　教育界　父兄　等への調査」

本年度はそれをうけて，

①調査（ア．愛知県の普通科高校のカリキュラム分析　イ．各層の教育意見　ウ．国立附属高校の過去10年間の教育研究の動向）

②各科の教育内容・方法の実験的検討と研究

③教育課程改革への一つの提案（中間試案）

の各問題について研究をすすめた。

（なお本研究，とくに②を中心として，41年度科学研究費（奨励研究）が与えられた。）